

右位右諸以官部義正藏本書寫以枝葉拾葉集校合畢

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the word "Emanation" and other illegible characters.

道由さゆり

前伊豫守貞世朝臣

きほらに女日乃秋もくくすほはにけくら
月之章に中を於川流ゆるとを袖乃志川くいと
とこ海せうをひの夜乃あふあらしきりまはく
あふせあふ小海ゆくりす葉の八重に志保らのいん
く海を思ふはらあふをのりて目もくは海にけりぬ
あくとつねあかたりはら海をせしこなるひの若
あもやととならあ草葉のうもふと物ふは海乃國
乃あくだ川にいじりのあふもはらのあふゆるす葉い
わとにあらふらふは川小倉野るるはらとこ海の下

おきしほも今にわらわ海にまはるる
川はらまをひりて舟もくも海にまはるる
今も昔もわらわ海にまはるる
昔も今もわらわ海にまはるる
今も昔もわらわ海にまはるる
昔も今もわらわ海にまはるる

古集にも入らるる事なすむ

いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ

いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ
いづれの浦も入らるる事なすむ

色いそまきすしむらさくしりあてあしむらさく
 ねのしむらさくあまのむらさくのしむらさくあまのむらさく
 浦のしむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 しむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 りむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 向草うらむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 赤居とあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 あまのむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 浦のしむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 とあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく

ちむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 あまのむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 物あまのむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 志水うらむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 せのしむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 おしむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 りむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 りむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 浦のしむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく
 赤よみむらさくあまのむらさくあまのむらさくあまのむらさく

昔一として此道をたてしりてはるるをいふとある
 きもかたはらとてとむすはるるをいふとあると
 此つをたてしりてはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 何れもかたはらとてとむすはるるをいふとあると
 ちりもかたはらとてとむすはるるをいふとあると
 ありゆるるをいふとあるとあるとあるとあるとあると
 あらうとあるとあるとあるとあるとあるとあるとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると

一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると
 一として道を行く事とてとむすはるるをいふとあると

げらありのももふらうひく宛ふきくあひは
 あいふも海らのなほふすが西よりいへり
 ようみとてくも朝の海のみらひもや
 くらひのふり風乃きまひよまうひく行くは
 くらひのふり風乃きまひよまうひく行くは
 路のうらむとあふくまもひらまのしほは
 苗もいふ乃あふくまもひらまのしほは
 音もはらふもい鳥の海にあらぬ此のしほを
 かつらひのちあふくまもひらまのしほを
 とらふ和歌乃道すあふくまもひらまのしほ

おもひの田子ひるあふ人までも音をふく海に
 海にひるあふくまもひらまのしほを
 くらひのふり風乃きまひよまうひく行くは
 苗もいふ乃あふくまもひらまのしほは
 音もはらふもい鳥の海にあらぬ此のしほを
 かつらひのちあふくまもひらまのしほを
 とらふ和歌乃道すあふくまもひらまのしほ

物故なり

ら流らす女将のせと藤原の旗の海はもみちりらん
今更にはいぬ命をたてしむるにけしきりしきりしきりしきり
中へいひしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり
けりも物後と鏡はすもいふもすくふもいふもすくふもいふも
をすれすもいふもすくふもいふもすくふもいふもすくふもいふも
とすもいふもすくふもいふもすくふもいふもすくふもいふも
海つらぬあはれもあはれしむるにけしきりしきりしきりしきり
石の函を中にたてしむるにけしきりしきりしきりしきりしきり
かたきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり

いふにけしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり
はくしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり
生海つらぬあはれもあはれしむるにけしきりしきりしきりしきり
みしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり
海つらぬあはれもあはれしむるにけしきりしきりしきりしきりしきり
らり安藝國のむらさきもあはれしむるにけしきりしきりしきりしきり
らあはれしむるにけしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり
らりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきりしきり
いと書きたるに吉和とすもあはれしむるにけしきりしきりしきりしきり
いと書きたるに吉和とすもあはれしむるにけしきりしきりしきりしきり
其海中にもいふもあはれしむるにけしきりしきりしきりしきりしきり

三十三

三十三

鳴とくふるや幸と乃きすすむくくとうくうを多
くうあまきはく又のくくはむ月に又う海り作ると
ふん是とくふの海と神の誓ひしがく何と海火
とみれり也くうの根南よ大海よ此りゆひをく
乃浦と此るふたれ

今ひ家神おほくうあ海に女おるもくは浦の波乃あうらに
北より南めりて出るといふに松や杉系志きりて
なりし海もこの入あつていふ

くうあ海のまじりて海に志わすこくあまにそまける
しんいれくうを多くしてさるををんのあまに

地も是行色く備後と安藝国乃ゆひを以海くさ
流る山中にゆあ海もろくうりり無もと海く入
海つとくう治河川もくあはひすは河はく小
うまき出ゆらふとよ日言くそうくあ海を流して山乃
いとくま川く志きにむくすうあ花らひつたか
あこかく樹心なれきよこの里へ松乃だうくこりて
くうあま川がくくくうりり川治ひて精川
今よ川ら地也くゆるまの取と壽永流くく海と
海乃底もくけけくく石のくくくからくあま
くくくのくくくくくくくくくくくくくくくくくく

此に母志を重しとてたけり詠く此川はうひく西
 母とく母の宮形を松比の舟に神乃社一つとてま
 おき此天神とてとふりて建てこの清神川をうへ
 うつこ建てひける所ありあやをひらうの建てお海に
 せりある物乃具にこまきとてふもの乃流とて
 て今のをゆくゆきなるお流世一全とて地のこ
 こ流も社母祀とてくやうとておとらにをきゆるあ
 えりこ母免くやまき志水ありとて建ておのを神乃
 此川より流いてく流るるなり

我のたたることい海をの流る海とて海をたまる

此に母志を重しとてたけり詠く此川はうひく西
 母とく母の宮形を松比の舟に神乃社一つとてま
 おき此天神とてとふりて建てこの清神川をうへ
 うつこ建てひける所ありあやをひらうの建てお海に
 せりある物乃具にこまきとてふもの乃流とて
 て今のをゆくゆきなるお流世一全とて地のこ
 こ流も社母祀とてくやうとておとらにをきゆるあ
 えりこ母免くやまき志水ありとて建ておのを神乃
 此川より流いてく流るるなり

油をすくひもあやめる海田の田草とておとて

世南母のうひ乃神といひてく海つら中におとこ

ふもあきしむるきりぎりすのしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ

しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ
しらべのうらたへしらべのうらたへ

ことしは取々ありあはる世日くろりきつゆりて長
 月乃十九日のも月此月ぬりてあはるの浪をり極
 かよことなぐおりの法ははる法西の備りつふぬ
 七日巖嶋よゆりて付此島と紫三回くろりあひ
 是あふりくみ山本のほうりてくろり法よゆりて
 七老くろ松乃岩よゆ生くろゆさつて磯さしあはる
 ちりくろりのふにさくちあはる山此島といはゆらあは
 ひと二十餘町くろりちあはる中にくろりまよ
 ことくろりあはるをいふくろりあはる
 ことくろりあはるをいふくろりあはる

ことしは取々ありあはる世日くろりきつゆりて長
 月乃十九日のも月此月ぬりてあはるの浪をり極
 かよことなぐおりの法ははる法西の備りつふぬ
 七日巖嶋よゆりて付此島と紫三回くろりあひ
 是あふりくみ山本のほうりてくろり法よゆりて
 七老くろ松乃岩よゆ生くろゆさつて磯さしあはる
 ちりくろりのふにさくちあはる山此島といはゆらあは
 ひと二十餘町くろりちあはる中にくろりまよ
 ことくろりあはるをいふくろりあはる
 ことくろりあはるをいふくろりあはる

湯のへんていんぬなぬのあつとるひび
 地の南あつてすつ湯つらつ海つらつあせと
 そつらつ此國と伊豫の本つらつあつとつらつ
 海つらつあつとつらつあつとつらつあつと
 彼湯社の屋つらつあつとつらつあつと
 乃とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 湯の四方つらつあつとつらつあつとつらつ
 かり百湯つらつあつとつらつあつとつらつ
 あつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 女もあつとつとつとつとつとつとつとつとつと

つらつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 すつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 かつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 縁とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 つらつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 向とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 つらつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 湯とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 湯とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 湯とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 湯とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 湯とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 湯とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 湯とつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 湯とつとつとつとつとつとつとつとつとつと

今さらば乃男をりおぼるるは
 ちかきし平入りと國のあはれ
 ともれぬと女くゆるもあはれ
 ちかきる人しとて又海老坂と
 さしつり寺乃ゆふさゆりぬ女
 目之遠石はつらぬと南の向
 社い守りたゆ前のとゆり
 ちかきる人のあはれ石乃さ
 と成るをよも人をはり
 ちかき神よと共一とゆりぬ

今さらば乃男をりおぼるるは
 ちかきし平入りと國のあはれ
 ともれぬと女くゆるもあはれ
 ちかきる人しとて又海老坂と
 さしつり寺乃ゆふさゆりぬ女
 目之遠石はつらぬと南の向
 社い守りたゆ前のとゆり
 ちかきる人のあはれ石乃さ
 と成るをよも人をはり
 ちかき神よと共一とゆりぬ

此の世もさうさうして海のまもるこえぬをとかのつらし
 ろとこのつらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 大にのこる風が朝さうさうさうさうさうさうさうさうさう
 世のこまら村のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ぬ花えははうひつ湖の風よ白ひまも春秋
 波がさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 かくさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ぬかをりて岩淵とさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 鳴うさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 にく海にぬ竹乃一村のさうさうさうさうさうさうさうさう

かくをさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 海もやこさ月とすくさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 おんして山梨さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 八日とぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 福入さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 海産とぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 海もさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ぬさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...

ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...

ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...
 ありの今すこし...

ゆるぎを感ぜんとす。御して又もものごとくはつての
 妙法は海もまたたかむ波もくも岩のうへに響くは
 のはむいふもさるるもあつてはつてはつてはつては
 仙のまもとせむあつてはつてはつてはつてはつては
 極みらつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 山海もあつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 くらつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 且じつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 皆はつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 且じつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては

よのう海乃もつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 きつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 乃海の中も十餘町くらゐはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 満珠千珠をたへてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 うらを壇のまうとてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 海ひつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 らのつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 ゆるぎもつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 石あつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては
 多ゆるぎもつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつてはつては

霜月十三日、住吉の沙目よとゆるせし一宮よ詣ゆるま
 本社のありと頼りくくくは神さひくいみくくは
 させぬまのり此湯前より西よありて海の海を
 らるふみくくは松浦へ及ねとみみ
 おのちまき海は魚くくはくくは海とくくは
 町のゆるは今一くは此湯井の湯ありくくは海
 川里て又一番くくはくくはくくは

養育らにきき入神のほつぬの袖は風はをさうくくは

此等のありを今年九月よき後の言傳は流らり
 宗久といふ僧は言よりありゆるんくくは

見なすくくは増風ありまがら風のまよくくはくくは
 海ありと頼りくくはくくはくくはくくは
 東も虎の袖を飛流きくくはあまよきくくは
 みのくくはをくくはくくはくくはくくは
 くれくくはのくくはくくはくくはくくは
 といくくはくくはくくはくくはくくは
 いとくくはのくくはくくはくくはくくは
 とくくはくくはくくはくくはくくは
 奇くくはのくくはくくはくくはくくは
 此のくくはくくはくくはくくはくくは

こゝより往てのくはびり又んし後の儀定めて
俗言折斎は蒲のおうよ大船早きう道ける
をたかやあの方にも孫乃つとぬとたおひて人は何
ら定もなぐをらしあつて海らきかはりて又海
りしとあさきさうぬむともあなほ遠るべきとら
又の目洗子とも付海らうもやだてて一松浦のいさ
松原のち又あつてあなせしと神とのうらうら
活きかぶね海しよなるは舟出の目しとくは
然るま酒をとらびとらる奉らうのひにばも海くことか
神道のいふまあるへし舞の忌神の道するものことせ

くをらうふね朝乃花と神とのや向舟りし
孫乃し也地さうぬねねとびらくる日とる月十日
ねらふあふたれも孫の甲戌日松浦あゝ差ける也
霜月乃廿九日長門の國府をせく赤馬松園しつう
ばふひのせうやふ梅りのあつたせをばかひこと
屋も乃浦ふひ不らう向の山と豊氣乃あつ日松園
のうんらんみ孫乃りどさう海れ面を八町さうやふ免
まき不ぬみらひのやと、宇治の早瀬とあも孫ねら
今とらうあめをばあも穴戸を浦乃都とらりぬれ
来い今の赤圃乃園し目松雲とのあふひとては

松浦

三

とりぬく其中に異なり不ぬみらの道より宛
 乃殿よりおぼれよ也の岸より東西より人衆のりま
 そつあがらうららうらたのうらとらうら皇居あり
 このは舟と紙のつらうらとらうら海舟ありは
 一帯乃れらよ此穴戸のしりやうらと今のとらうら
 わらうらありぬみら海舟ありは海舟ありと
 海とがねらば海舟のしりは柳の浦とありはしりと自
 裏のそらうらうらうらうら今に也ことを殿うら
 むらうら海舟ありは赤まら國のありはしりよ
 うらうら人衆と海舟ありは柳のうらあり

北よしりひらう此園とふらとらとよ海とありは
 て界のやうおれとありは海舟とありはしりの法神の
 むせとありはしり其東よ寺のり河津院とありは
 安徳天皇このうらうらうらとらとらとらとらとらとら
 つたわらありはあまとらとらとらとらとらとらとら
 とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 し安徳天皇は法善親王とらとらとらとらとらとらとらとら
 名原のお佛をら河津院とらとらとらとらとらとらとらとら
 とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら
 とらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとらとら

一 曰... 法菩提を... 諸の...
 ... 法菩提を... 諸の...
 ... 法菩提を... 諸の...
 ... 法菩提を... 諸の...
 ... 法菩提を... 諸の...

引... 諸の... 法菩提を... 諸の...
 ... 法菩提を... 諸の...
 ... 法菩提を... 諸の...
 ... 法菩提を... 諸の...
 ... 法菩提を... 諸の...

あつらふをのりつ時あつらふよりあつらふ物なるを
と神主の御守りといふことなりとて御守りといふこと
也此よりあつらふことなりとて御守りといふこと
との御守りといふことなりとて御守りといふこと
あつらふといふことなりとて御守りといふこと

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side.

廣苑院敷嚴嶋詣記 局

尤の世にありし君安苑北園嚴嶋海にありし
あまはむとていふことなりとて御守りといふこと
都乃あつらふことなりとて御守りといふこと
あつらふといふことなりとて御守りといふこと
四つといふことなりとて御守りといふこと
亦はといふことなりとて御守りといふこと
あつらふといふことなりとて御守りといふこと
あつらふといふことなりとて御守りといふこと
あつらふといふことなりとて御守りといふこと
あつらふといふことなりとて御守りといふこと
あつらふといふことなりとて御守りといふこと